

2025年度 豊義会東京研修報告書

参加者 芹澤正志、岡本昭治、小森弘詞、前田敦司、浅田 徹、荒木慎太郎、森垣康平、米田達也、中尾浩二 計9名

日 時	2025年7月28日(月)午前 9時45分～
視 察 先	衆議院第2議員会館 918号室 対応者；文科省 初等中等教育局
調査項目	全国で増加傾向の不登校児童生徒の現状と課題、国の政策や先進事例を学ぶ
調査内容	<p>(1) 不登校の定義と現状</p> <p>公立校授業年210日中30日以上欠席で「不登校」と定義しており、2024年度は不登校人数は約35万人。そのうち半数以上が90日以上欠席、完全不登校は約1万人強となる。傾向として中学生での増加は鈍化しているが、小学生低学年が顕著に増加している。</p> <p>(2) 国の政策「COCOLO(ココロ)プラン」</p> <p>「誰一人取り残されない学びの保証を社会全体で実現するプラン」を提供する狙いで、以下3つの柱に基づく総合対策をおこなう。</p> <p>①不登校でも全員が学びの場にアクセスできる環境整備</p> <p>②心の小さなSOSを見逃さず「チーム学校」で支援する</p> <p>③アンケート等による学校風土の可視化により、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする</p> <p>(3) 具体的政策「個別最適化支援」</p> <p>不登校児童生徒一人一人に応じた多様な学びの考え方として、4分類の支援。</p> <p>1：自分のクラスに入りづらい →校内教育支援センター</p> <p>2：在籍する学校に行くことができない →学びの多様化学校(不登校特例校)</p> <p>3：学校に行けない →教育支援センターやフリースクールなどの民間団体</p> <p>4：家から出ることができない →オンラインの活用やアウトリーチ支援</p> <p>(4) 具体的政策紹介「学びの多様化学校(旧：不登校特例校)」</p> <p>学校の管理機関からの申請に基づき、不登校児童生徒の実態に配慮した特別な教育課程を編成する。学校で、登校時間の調整や授業数削減などで通う敷居を下げた学びを提供している。全国で約300校設置を目標としている。</p> <p>(5) 地域・保護者向け支援</p> <p>地方自治体の相談窓口情報をまとめたウェブサイト「不登校に関する地元の相談窓口」を運営し、不登校親の会などを通じて保護者等に提供している</p> <p>(7) 今後の方向性・改革構想</p> <p>アンケート調査による学校風土の把握と合わせて、教員の役割をファシリテーター化する授業運営「自由進度学習」を導入し、「個別」「協働」「一斉的学習」の同時進行を目指す学習環境の整備を行い、学習指導要領改訂と連携した施策展開を図ることで、学ぶ楽しさを感じることでできる学校にしていきたい。</p> <p>○所感</p> <p>今後は、「学びの多様化学校」導入の可能性の検討や、不登校傾向の家庭への情報提供の強化など、地域・保護者・学校・福祉機関との連携体制を一層強化し、実効性のある取り組みを進めていくべきと考える視察となった。</p>